

2022. 12. 4 (月) ヨハネ1 : 1～5

1:1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

1:2 この方は、初めに神とともにおられた。

1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。

1:4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。

1:5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。

#### <説教>

今からおよそ二千二十数年前、神のひとり子、イエス・キリストは人となってこの地上に生まれて来てくださいました。それは天の父なる神のみこころ（御意思）によることでした。神の御子イエスからすれば、父なる神への従順の故のことでした。そしてイエスはこの地上で全く罪なき生涯を送り、私たちの罪のために十字架にかかって死なれ、墓に葬られ、三日目に死人の中からよみがえられました。その40日後に天に昇られ、父なる神の右にお着きになり、今は御父とともに聖霊を私たちにお送りになりお与えになって、イエスを神の御子、キリスト、救い主と信じる私たちを守り、導き、福音を宣べ伝えさせ、神の栄光を現しておられます。またなお罪深く日々罪を犯している私たちのために父なる神にとりなしていただきっています。そしてこの世を最終審判し、私たちの救いを完成して下さるために、再び父なる神の御意思に従ってこの地上に来ようとしておられます。

そのイエスが最初に人となってこの地上に到来なさり、生きられたことを使徒ヨハネは〈ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。〉(1:14)と記しました。ですからその福音書の最初からヨハネが「ことば」と記したのは、イエスのことにほかなりません。ヨハネはその、人となった「ことば」なるイエスがどんなお方であるかをまず語ります。

〈初めにことばがあった。〉(1:1)これは「はじめに神が天と地を創造された。」(創世記 1:1)を思い起こさせもする言い方です。確かにイエスは天地創造の時、既に「あった」、即ち永遠の昔から常に存在し、存在し続けるお方です。そして〈ことばは神とともにあった。〉これはイエスが「父なる神」とは別の「人格、位格」として存在しておられ、しかも同時に父なる神と本質を同じくし、私たちの想像や表現を超えた親密さで父なる神と完全に結びつき、交わり、一つであり、あり続けるお方だということです。イエスご自身が「わたしと父は一つです」(ヨハネ 10:30)と言っておられるとおりです。三位一体において、「父なる神」と「子なる神」の別個の二位（二位格）が本質的には一つであり、決して分離しないで結びついている、ということです。そして〈ことばは神であった。〉もう既に言っていることでもあります。イエスはその性質、本質、実質において全く神であり、永遠に神であり続けるお方だということです。

続けて〈この方は、初めに神とともにおられた。〉(1:2)これは〈ことばは神とともにあった。〉(1:1)の繰り返しですが、それを「初めに」という言葉によって一層強調し、念押しをしています。「初めに」つまり天地創造のとき、更にそれ以前から永遠の昔からイエスは「神とともにおられた」ということです。言い方を変えれば、イエスが「神とともにおられ」なかったことは、永遠の昔から一瞬たりともなかった、そして今後もない、とい

うことです。

このように、〈人となった〉イエスは、永遠に存在なかり、永遠に父なる神とは別の人格・位格のお方であり、同時に私たち人間には理解できないほど親密に固く離れがたく永遠に父なる神と一体に結びついているお方であり、要するに永遠に完全に徹底的に真の神である、と使徒ヨハネは主張しているのです。イエスご自身がヨハネを通して私たちに明らかに示し、教えておられるのです。信じるように語りかけておられるのです。その意味でもイエスはまさに「神のことば」なるお方なのです。

そもそも、この箇所「ことば」と訳されたギリシア語「ロゴス」には、「ことば」という意味と同時にその背後にある「意思」「力」「知恵」「理性」などの意味があります。ですから「ことば（ロゴス）」とは、単なる「音声」「言語」ではなく、「意思」「力」「知恵」「理性」ある「ことば」なのです。「神のことば」は初めから神の御意思を表し、それを実際に完全に実現する力ある「ことば」でした。〈神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。〉（創世記 1:3）、また〈主のことばによって天は造られた。〉（詩篇 33:6）、〈主が仰せられるとそのようになり主が命じられるとそれは立つ。〉（同 33:9）ともあります。このように「（神の）ことば」にある神の意思、知恵、力のことは旧約聖書を持っていたユダヤ人はとっくに知っていました。それでヨハネは、永遠の神の意思、知恵、力の現れであり、永遠の神の意思、知恵、力によって「人となった神（の御子）」イエスを、また永遠の神の意思、知恵、力を語り実行したイエスをユダヤ人だけでなく、ギリシア語を使う人々にも証しすべく、イエスのことを「ことば（ロゴス）」と表現したのです。それは全世界の人々のためだったということであり、つまりは私たちのためでもありました。イエスは〈ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵〉なのです（I コリント 1:24）。

神の創造のみわざのことを言うなら、それも父なる神と同じく、「神のことば」御子イエスのみわざでもありました（1:3）。そしてイエスは永遠の〈いのち〉、復活の〈いのち〉の源です（1:4）。あり、そのイエスを信じる人のにある。〈その証しとは、神が私たちに永遠のいのちを与えてくださったということ、そして、そのいのちが御子のうちにあるということです。〉（I ヨハネ 5:11）。と別の書でヨハネは言います。このイエスのいのちに照らされて私たちは永遠の救いに至る道を歩んで行くのです。私たちの救いはこのイエスのいのちにあるのです（4）。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」（ヨハネ 8:12）とイエスが言われるとおりです。この世は確かに罪の世、暗闇の世ですが、イエスだけが〈闇の中に輝いている〉〈光〉です（5）。「あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあって光となりました。光の子どもとして歩みなさい。」（エペソ 5:8）と使徒パウロは勧めます。「神のことば」イエスによってこの世の闇は暴かれます。それ故に世はイエスを憎み、イエスの方に来ません（ヨハネ 3:20）。イエスにますます反逆し、イエスを信じ従う者（私たち）をも憎み、死の脅しをもって迫っても来ます。しかし光なるイエスは決して負けず、この地上にあっても神の力によって罪と死に打ち勝ってくださいました。

今のこの暗闇の世の中にあって光であるイエスを仰ぎ見、イエスに信頼して、「神のことば」イエスに従って歩むなら、私たちは〈決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます〉。そのために神の御子イエスは人となってこの世に来てくださいました。